

団体関係者ヒアリングの結果について

千代田区基本構想懇談会 第2回全体会 資料

令和4年8月29日

目次

1. ヒアリングでの意見	P3
(1)めざすべき将来像について	P4
(2)分野別の将来像について	P5
(3)その他、全体に関することについて	P8

1 ヒアリングでの意見

■対象団体の関係分野一覧

子ども／子育て／教育／女性／高齢者／障害者／地域福祉／保健衛生／
スポーツ・文化／コミュニティ／町会／マンション／商工観光／環境／
まちづくり（エリアマネジメント）／外国人・国際平和／ジェンダーなど

1 ヒアリングでの意見

(1)「めざすべき将来像」について

- 現在はなくなりましたが、昔はあった千代田区の良いものや、千代田区の最高地点、最低地点など千代田区のいろいろな情報を次世代に引き継いでいくべきだと思う。町名の由来などそういったものを次世代に伝えていきたい。
- 「伝統とモダンがとけあう」とあるが、「共存」や「ともに活かす」でも良いのではないか。無理に一緒にする必要はないと感じる。古いものがしっかりと残って、新しいものと相互刺激になっているのが良い。
- たたき台の「4 基本構想の実現に向けて」の（2）の「国際都市東京の中心である千代田区として～」、あるいは（3）の「地域課題の解決や新たな活力の創出に～」といった記述は重要なことであり、「2. めざすべき将来像」にも、重複感が出ない形にして、同様の記述があった方がメッセージとして伝えられる。
- 「都心」や「モダン」、「歴史」とあるが、違和感を覚える。
- 伝統とは担う人が必要であり、そういった人がいなくなると伝統は途絶えてしまう。
- 「分野別将来像」の中で「笑顔で成長し合えるまち」とあるが、東京の人は表情が暗いと感じる。日常のふとした瞬間に笑顔になれる取組を意識してほしい。

1 ヒアリングでの意見

(2)「分野別の将来像」について

自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち

- 子どもがしっかりと遊べる場が必要だと思う。子ども達にとって住みよいまちにしてほしい。
- 障害のある方が運動できる場所が少ない。障害のある方も楽しめる場を作してほしい。
- 知的障害や精神障害を持つ方は、自ら声を上げたいが、自分の意見を発言する場や、自分の意見を発言できるようになる学びの場がない。当事者が自分の意見を発言できるようになることは重要であると思う。
- 「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」においては、人を活かすポイントがあっても良いと思う。千代田区の住民はいろいろなものを持っている。そこが、千代田区の長所だと思う。健康になれる環境（公園内の健康器具や散歩道のベンチなど）が重要であり、まちづくりとも連携する必要がある。
- 家族や地域との関係が保たれてこそ、健康が維持されると考えられているため、そのような視点も重要である。
（ソーシャルキャピタル）

1 ヒアリングでの意見

(2)「分野別の将来像」について

集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち

- 今はマンション住民にいかに関会活動に参加していただくかが課題である。
- 地域のつながりが薄れてきている。
- マンション内のコミュニティや、マンションと周辺地域のコミュニティがしっかり形成されていないことは大きな課題であると認識している。また、地域の取組みに参加する人が増えないと、災害時の対応など新たな課題が生まれる。
- 多様性を活かしながらブランディングできていけると良い。既に「千代田」という名前がブランドイメージを持っていると思う。シビックプライドなど「千代田」に対する住民の想いを活かすことがコミュニティづくりのポイントだと思う。
- 「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」では、新しいものが生まれやすいまちというニュアンスを含んでも良いと思う。例えば、コミュニティの在り方も多様で良いと思うし、そのコミュニティ同士が横連携できていることが重要だと思う。
- 人との支え合いについては、伝統的な町会のようなしっかりしたつながりだけでなく、もっとライトなつながりなどいろいろな関わり方を支持するような書き方にすると、少し都会的で千代田らしくなるのではないか。
- 千代田区には多くの教育機関があるので、分野別将来像の2つ目「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」の中にそのことに触れても良い。
- 何か区が課題に考えていることがあれば、お題として大学に持ってきてほしい。学生は、突飛なアイデアを出す印象があるかもしれないが、現場を見続けると、現場目線の保守的なアイデアを出すようになる。一長一短ではあるが、思っているよりもずっと現実的な提案もでき、学生にとってもいい経験になるだろう。それがひいては、「集い、つながるまち」にもつながってくると思う。

1 ヒアリングでの意見

(2)「分野別の将来像」について

やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち

- 障害のある方にとって歩きやすい道、使いやすい公園といったまちづくり、場所づくりが必要と考える。
- 「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」については、千代田区は自然を大事にしていると感じる。皇居を中心に、緑や生物を大事にしているので、基本構想の中で「まちの中にある自然を大事にする」といったメッセージを入れると良いのではないかと感じる。
- 分野別将来像の「都市基盤や災害の体制」に関して、ハード面だけではなくソフト面の災害対応も重要である。
- リサイクルなど環境に貢献していくことを謳えるのではないかと感じた。
- 災害対策に関する記述の中で「安心」について強調したほうが良い。どのような事業を行っていくかなどの具体的な話は、別につくる計画に落とし込むのかもかもしれないが、安心についてもう少し触れてほしい。

1 ヒアリングでの意見

(3)その他、全体について①

- 「目指すべき将来像」について、中期的にみるのか、長期的にみるのか、それとも明日のことなのかが分からない。
- 株式会社の事業報告書のようなものである。株式会社の事業報告は、キャッチコピーもありながら数値目標や具体的な事業の記載がある。こちらの叩き台は具体性がなくただビジョンを掲げているだけである。
- 読者の多くは高齢者になると思うが、高齢者には新しい言葉はなじまない。できるだけ、高齢者にも馴染みのある言葉を使ってほしい。
- 分野別将来像は選挙で掲げる公約のようなものである。
- 「差別しない」ことが重要。差別が諸悪の根源であり差別をなくすことを前面にだしてほしい。
- たたき台の「はじめに」の部分で「リスク」という言葉が2回使われているが意味が分かりにくく違和感があるし、高齢化を「リスク」と表現すると高齢者はあまり良い気持ちをしないのではないか。「少子・高齢化」の「進展」という言葉にも違和感がある。
- 住民だけでなく、他区の人や外国の人など、区外の人視点も大事にしてほしい。
- 若干読んでいると住民寄りの文章に感じられるので、外からどう写るか、品格のようなものも大事にしてほしい。
- 千代田区が企画したイベントに参加するだけでなく、個人が住民生活の向上のための意見をだして実現していく「参加型のまち」を将来像として提案する。
- 「3 分野別将来像」を見ても「働く」という視点、言葉がそんなに多くない。リモートワークが進んでおり、コロナ前のようなワーカーの戻りはないかもしれないが、区内全域において働く環境を整備していく姿勢が読み取れる表現があった方がよい。
- 「3 分野別の将来像」について、それぞれが何の分野がわかりづらい。
- もう少し具体性を持たせた方がよいと思う。内容が包括的になっている。

1 ヒアリングでの意見

(3)その他、全体について②

- 総花的な基本構想になっているが、例えば丸の内の地区では子育てはあまり関係ない。個人的には災害に強いまちが重要だと思うが、各地域の優先順位が分かると良い。
- 千代田区の良いところは人的な配置が充実しているところ。今後ITなどが発展していくと思うが、直接的な人の優しさを読み取れると良い。
- 基本構想について、多様性の中で子ども、女性、高齢者が強調されているが、今まで語られてきた部分のみとなっている。今まで語られてこなかった障害者やLGBTを単語として取り入れるだけでもより多様性が協調できると思う。
- 良きものは残し、変えるべきところ（差別や偏見）は変える、という考え方がベースになるとよい。
- ジェンダーという言葉が出てこないことにも違和感を覚える。あえて使われていないのだと思うが、国際的にはジェンダーと使うことが多いため、使ってもよいのではないか。
- 第3次基本構想の反省を踏まえて第4次基本構想に進んでいただきたい。
- 千代田区として、行政の役割ではなくまちづくりのあり方をどう考えているかも興味がある。「普通の生活の価値」といっても、人それぞれ「普通」の定義が異なる。例えば、住民同士の温かいおせっかいや豊かな自然環境は、地方では普通だが東京ではなかなか味わえない。こうした「地方の普通」と「東京の普通」を足して2で割り、それでも全員が「普通」と感じられるような落としどころを追求してほしい。
- 内容を読むとどこの区でも同じに見えてしまう。
- 記載内容が区民に寄りすぎているので、企業や産業、大学に対する文言がない。千代田区に本社や大学があることがステータスだと思うので、そういった人に響く文言がほしい。
- 今住んでいる人は、どうしても短期的な目線で考えてしまいがちだが、基本構想は、非常に長期的な視点で考えていく必要があり、将来を考えて持続可能性を意識してほしい。